

【陸上競技専門部】令和4年度鳥取県高等学校体育連盟主催大会 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策競技運営ガイドライン

令和4年5月7日

鳥取県高体連陸上競技専門部

1 大会参加について

- (1) 県外で開催される大会への参加は可とする。大会への参加にあたっては、生徒及び保護者に対して事前に参加の意向を確認し、より特段の感染防止対策を徹底して参加する。なお、大会参加後2週間は、検温を含め体調管理をしっかり行うとともに、無料のPCR検査等（PCR検査又は抗原定性検査をいう。以下同じ。）を活用すること。併せて、厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）を活用する。
- (2) 「緊急事態宣言対象地域」及び「まん延防止等重点措置対象地域」で開催される公式大会以外の大会への参加については、自粛することとする。
- (3) 大会参加に伴う宿泊については可とする。ただし、宿泊を行う場合は、最大限の感染防止対策を講じるとともに、下記の宿泊についての項目を遵守する。
- (4) 学校関係者に新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生した場合、生徒等の大会参加の基準は次のとおりとする。
 - ア 陽性者及び保健所から濃厚接触者と認定された生徒等は、保健所から指示された行動制限（自粛）期間中は大会に参加することができない。ただし、濃厚接触者については、感染者と最後に接触した日の翌日から起算して、4、5日目の抗原定性検査（または5日目のPCR検査）で陰性が確認された場合は、当該日から大会に参加することができる。
 - イ 保健所等からの指示により、接触者（濃厚接触者は除く。以下同じ。）としてPCR検査等の受検を指示された生徒等は、当該検査結果で陰性が判明するまでの期間は大会に参加することができない。
 - ウ PCR検査等の対象外の生徒等は大会に参加することができる。
 - エ その他、各競技団体が定める参加基準（ガイドライン等）がある場合は、当該基準も併せて遵守すること。
 - オ 同居する家族等がPCR検査等を受検する場合は、公式大会への参加に限り、「鳥取県立学校版感染症予防ガイドライン」の基準によらず、参加を認めることとする。（ただし、当該生徒等に発熱等の風邪の症状がある場合や、濃厚接触者となった場合を除く）
 - カ 同居する家族等が陽性者となり、生徒等が保健所から濃厚接触者として認定された場合の大会参加の基準は次のとおりとする。
 - ・当該生徒等は、保健所から指示された行動制限（自粛）期間中は大会に参加することができない。ただし、最後に接触した日の翌日から起算して、4、5日目の抗原定性検査（または5日目のPCR検査）で陰性が確認された場合は、当該日から大会に参加することができる。
 - ・大会へ参加している時に、保健所から濃厚接触者として認定された場合、当該生徒等は判明後直ちに大会への参加を取りやめ、保健所からの指示に従う。
 - ・その他の生徒等については、大会へ参加することができる。
 - キ 大会に参加する選手、監督、コーチ、運営スタッフ等は、大会の1週間前から検温結果及び体調について別紙の「体調管理表」に記録し体調管理に努める。当日、検温を行い、体調不良や発熱等の風邪の症状がある者は参加できない。主力選手であっても、このことを徹底する。

ク 大会終了後は各自2週間の健康チェックを行い、体調不良等のある場合は、専門委員長と陸上競技協会へ報告。専門委員長は部長、高体連事務局へ報告する。

2 移動・宿泊について

- (1) 移動の際は、可能な限り周囲との間隔を空けることとし、必ずマスクを着用する。併せて、可能な限り換気に努める。
- (2) 宿泊を行う場合は、原則個室とする。ただし、個室が全員分確保できず相部屋での宿泊となる場合には、宿泊者が部屋の定員の50%以下となるよう人数を制限する。なお、部屋の定員の50%以下の配宿が困難な場合は、部屋内において特段の感染防止対策を徹底する。

3 大会開催中の予防対策について

(1) 選手、監督、コーチの感染予防対策

ア 集合時の感染予防対策

- ・当日、検温を行い、体調不良や発熱等の風邪の上場がある場合は参加を認めない。

イ 受付時の感染予防対策

- ・手指消毒液を設置し、参加者に対して検温を行い、マスクの着用を確認する。
- ・距離を置いて並べるように1～2m間隔で目印（STOPマーク）を設置する。
- ・対面場所には必要に応じてビニールカーテンを設置する。

ウ 待機中の予防対策

- ・各校待機場所(テント等)の間隔は10m以上開け、待機場所内(テント等)では密接場面が生じないように1～2m距離をとる。
- ・中2階には更衣用テントを各校待機場所の間に設置し、更衣室の混雑を回避する。
- ・万一の時、すぐに連絡ができるよう顧問連絡先をエントリーシートに記載し提出させる。
- ・水分補給は個人持ち容器を準備し、回し飲みを禁止とする。
- ・タオルは個人で準備し、共用を禁止とする。

エ 試合中の感染予防対策

- ・選手はウォーミングアップ、競技中以外はマスク着用すること。
- ・補助員は原則マスク着用とするが、熱中症対策のため周囲との距離を保てるようであれば適宜外してもよい。
- ・招集所での混雑を避けるためトラック種目は組ごとに招集時間を分け、一部トラック種目とフィールド種目は現地での招集とする。
- ・競技中、唾や痰を吐くことを極力しない。
- ・集団での応援や、声を出しての応援は禁止とし拍手での応援のみとする。
- ・飲食は、参加校の責任において飲食させるとともに、ごみは全て持ち帰らせる。
- ・飲食中は、周囲の人となるべく距離をとり対面を避け、会話時はマスクを着用する。
- ・選手が使用するバトンや投てき物は定期的に消毒する。
- ・会場内の複数個所に消毒液を設置し、手を触れる場所は定期的にアルコール消毒を行う。
- ・更衣のみロッカールームの使用を許可し、シャワー室の使用は禁止とする。また、ロッカールームは常に換気し使用人数を制限する。

オ 試合後の感染予防対策

- ・大会終了後は各自2週間の健康チェックを行い、体調不良等のある場合は、専門委員長

と陸上競技協会へ報告。専門委員長は部長、高体連事務局へ報告する。

(2) 競技役員、運営スタッフの感染予防対策

ア 集合時の感染予防対策

- ・大会1週間前から陸協様式2「健康チェックシート」を記録し、受付時に提出する。
- ・当日、検温を行い、体調不良や発熱等の風邪の上場がある場合は参加を認めない。

イ 受付時の感染予防対策

- ・東中西部の3ヶ所に分けて受付ブースを設け、手指消毒液を設置し、競技役員、運営スタッフに対して検温を行い、マスクの着用を確認する。
- ・距離を置いて並べるように1～2m間隔で目印（STOPマーク）を設置する。
- ・対面場所には必要に応じてビニールカーテンを設置する。

ウ 待機場所、待機中における予防対策

- ・待機場所は椅子のみとして間隔を1～2m空け、換気を1時間に1～2回、5～10分程度行う。

エ 試合中の感染予防対策

- ・競技役員のマスク着用は原則着用とするが、熱中症対策のため周囲との距離を保てるようであれば適宜外してもよい。
- ・会場内の複数個所に消毒液を設置し、手を触れる場所は定期的にアルコール消毒を行う。
- ・昼食弁当の配布はマスク及び衛生手袋を着用し、飲食場所は十分な広さを確保し密を避ける。

オ 試合後の感染予防対策

- ・大会終了後は各自2週間の健康チェックを行い、体調不良等のある場合は、専門委員長と陸上競技協会へ報告。専門委員長は部長、高体連事務局へ報告する。

(3) 観客に対する感染予防対策

ア 観客は、事前に申請された者に限定し、鳥取陸上競技協会が定める方法（Google Formsによるアンケート報告）により、当日の体調チェックと氏名、連絡先を確認し、体調不良や発熱等の風邪の症状がある場合は入場を認めない。大会によっては、前述の手続きを終えた者にリストバンドを配布することがある。



【観覧者用アンケート】

- ・大会観覧日1週間前から体調チェックし、観覧当日に報告
- ・アクセスは大会前日より可能
- ・会場でのチェックも可能⇒Google フォーム QR コードを掲示

イ 受付時の感染予防対策

- ・受付に手指消毒液を設置し、観客に対して検温を行い、マスクの着用を確認する。
- ・距離を置いて入場するように1～2m間隔で目印（STOPマーク）を設置する。
- ・対面場所には必要に応じてビニールカーテンを設置する。
- ・当日の朝に検温し発熱などの体調不良がある場合は入場を認めない。

ウ 観戦時における予防対策

- ・観客はマスクを着用し周囲の間隔を1～2m開けること。また、集団での応援や、声を出しての応援は禁止とし拍手での応援のみとする。

- ・会場内での飲食は禁止とする。ただし、水分補給や薬の服用は除く。
- ・上記のことが守れない時は観戦を禁止する場合がある。

エ 観戦後の感染予防対策

- ・大会終了後は各自2週間の健康チェックを行い、体調不良等のある場合は、専門委員長と陸上競技協会へ報告。専門委員長は部長、高体連事務局へ報告する。

(4) 報道関係者に対する感染予防対策

ア 受付時の感染予防対策

- ・手指消毒液を設置し、報道関係者に対して検温を行い、マスクの着用を確認する。
- ・所属・連絡先を確認し陸協様式4「健康チェックシート」を記入し、体調を確認の上、入場を許可する。
- ・距離を置いて並べるように1～2m間隔で目印（STOPマーク）を設置する。
- ・対面場所には必要に応じてビニールカーテンを設置する。
- ・当日、検温を行い、体調不良や発熱等の風邪の上場がある場合は入場を認めない。

イ 取材中の感染予防対策

- ・取材中のマスクは原則着用とするが、熱中症対策のため周囲との距離を保てるようであれば適宜外しても良い。
- ・報道用ビブスを着用し、取材等は担当者の許可を得て、指定された場所で安全な距離を保って行う。
- ・会場内の複数個所に消毒液を設置し、手を触れる場所には定期的にアルコール消毒を行う。

ウ 取材後の感染予防対策

- ・大会終了後は各自2週間の健康チェックを行い、体調不良等のある場合は、専門委員長と陸上競技協会へ報告。専門委員長は部長、高体連事務局へ報告する。

(5) その他

ア 個人情報厳重管理

- ・提出された書類は大会後、「感染症予防対策責任者」が1ヵ月間保管し、その後、適切に廃棄処分する。

イ 新型コロナウイルス感染に対する対応

- ・大会開催期間中に新型コロナウイルス感染症を疑うような症状が見られた場合や、感染者が確認された場合は原則、大会を中止する。

4 緊急連絡網

役 職	氏 名	担当内容	連絡先
会 長	加賀田 剛	高体連会長・大会責任者	0858-72-3470 (高体連事務局)
部 長	檜 桂憲	高体連陸上競技部長・大会副責任者	
総 務	新田 明彦	鳥取陸協専務理事・総括責任者	090-3889-0389
専門委員長	永代 浩孝	感染予防対策責任者・中部地区連絡担当	090-3634-7703
総務委員	増井 健二	西部地区連絡担当・観客対応	090-1683-5578
総務委員	福長 正彦	東部地区連絡担当・生徒対応	090-3370-2214

